

## ロザリンド・クラウスと「モダニズム」

本講演では、美術批評家ロザリンド・クラウスの理論を「モダニズム」との関係で考察する。クラウスは1960年代末に、クレメント・グリーンバーグの「モダニズム批評」の強い影響下で活動を始めるが、数年後にはここから距離を置き、独自の批評スタイルを確立していく。この講演では、『独身者たち』『ポストメディアム時代の芸術作品』の2冊を主な参照項として、クラウスの理論的転回をたどる。ディスカッサントとして、広範な文脈でポストメディアム論を展開する門林岳史氏を迎える。

日時：2025年7月11日（金）16:00-18:00

場所：神戸大学 鶴甲第一キャンパスE410（学術交流ルーム1）

参加方法：参加無料・事前予約要（下記メールアドレスまでお申し込みください）

\* 対面のみ

### 講演者

井上康彦（いのうえ やすひこ）

東京藝術大学美術学部芸術学科美学研究室教育研究助手。専門はアメリカ現代美術。訳書にロザリンド・クラウス『独身者たち』（平凡社、2018年）、『ポストメディアム時代の芸術——マルセル・ブロータース《北海航行》について』（水声社、2023年）など。

### ディスカッサント

門林岳史（かどばやし たけし）

関西大学文学部映像文化専修教授。専門はメディアの哲学・映像理論。著書に『ホワッチャドゥーイン、マーシャル・マクルーハン？——感性論的メディア論』（NTT出版、2009）、共編著に『クリティカル・ワード メディア論』（増田展大と共編、フィルム・アート社、2021）など。

主催：神戸大学国際文化学研究科石田圭子研究室

科研費：基盤研究(B)「モダニズムの政治学：戦後におけるモダニズム美学の形成／受容／展開と政治の関連性」（研究代表者：石田圭子）

共催：神戸大学国際文化学研究推進インスティテュート (Promis)